



園部共同作業所だより

園部共同作業所発行

622-0011
船井郡園部町上木崎町入道32

0771(62)3249

No 44

夢を一緒に

精神部保健所
福祉相談員
西邑章

しこ十一ヶしが一しくの一はそて一障病少バはすとるに害たしてとと稿よ邑し精
たな分いでた中間でかよでどう生い害氣なツボ。関かし者最いマいり依をりでて神こ
いにきは。心題い、うきうし活きをのいクジ精わをての近とるま頼書一す赴保の
こ浮い本しに解くどになしたをに抱たよをテ神リテ引一の思つこしがい便。任健康度
とかき人か行決かの回いて人しくえめう受イ障を一き元自いいとたあてり作を福園
がびし達しわ型、よ復も々てさ様にけブ害持マ出氣分まで、りくに業し祉部
分上たのれ、いうさ部本へい地々思るな者つにしは。書自最今だ載所て相保
かが姿元こてのわにせ分人のまを域ない場フのて本てを精い分近回させのき談健
りつ、氣れい援ゆ援てを達援す抱で生ま面イ多い人いい神ての感筆いる所た員所
までが一だま助る助いどの助えは活すが一くま達けか障みテジを一原長西と



まにも望みだ層し変とを本き接氣る人かど族しすあるな秘くる人と中
せ隠な家をて少と必たわでき人なやーと達。れ、てがた本部めとのーはでこ
んれれ族ーくし思要取つ、ち達話訪が、とこだそい、り人分てがでがー感こ
よてるも緒だ、いにりて本んのに間でこ関うけしるそまの多るきく、ちで私何じ数
いヒ援にさ視まな組き人とこなもてちわしいて人のえの多る本く、ちできの
るン助語い点す。つみま達評きて然まを視で助本と様で持人可のきて関
かト者り。をてがすの価るきとすでし点し者人をなしつ能色前ないわ
もがも、夢変く今表すこま前。ーてでよ、意話たて健性々にいるり
しそ元本やえる後こ情ることー。向面元い本うが家識でい康をない本この
れこ氣人希てのーうもこ

作ラ業間と一こいタす分ふば鏡のってはいはのをに渉家線ま業比さそ一元んすん格ん御か
業とを。思おとる方のかこの指ちおさまよレし入しまでし時べれん老氣。まで一年ら
の帰し仲つはのの作顔せの前定やりつしろクたつでトた間れてな化がの最。いの五呼お
方つて間たち関で四業をて煙で席んまばたこレりてり乗ラ。もば一感。な状近感か見八ばつ
もていが時や係す時のな、をあはーすりがん।花長、セツ昔ガ通五じ少なをーしものーてや
氣して一間んあがと終がボゆり休の。欠、でシ見々なてクはク所年でしり見おて“よおいんー
がまも所がーり、決了めんうま憩作そ席こ参ヨやとじくを国ツ日、す早まるつおそうつる
むまス懸終がまそま時てヤゼす室業のがこ加ン海世みれ止道と数當。いしとちりのなち彼と
けす。コ作時る。なてはま自と大でおい年て事浴話店交、号り作に所。やまま風やは皆
ば。

「ホチホチやで

ごう所生そらしのつけボボボ流うこ返なまどん取とおいんはつなつ戻にるなれちめを自
ろかに活のし。おちてチチチ行けの事にすう、ら少ーの。バちぐめりかのーるやるさ分
で。来し時に近母ややボボボ語で文はを。や調れしワ日そスやあて、自でととん。がの
所す少ら、一ないさん。チチチに一句ボ尋ボ「一子ま遠シにれ賃んいおジ分すよ今ー作し出
長しれボ入る将ん。身作おな時がチねチとどす。慮にはでにーでりーのがろ日の業て來
心るチでで來と現てさ体業いつ期皆ボてボ仲う。気もーもものすまつ指、こは姿室、そ
杉山俊夫配のボボしは二在こにしでた作んチもチ間やお味あス工な作のすと定いん調がに勝う
なでチちょ一人、こ氣やでの業なヤいヤが、つにマ貨り業で。鏡席つだ子あー手な
こし作ボう人暮高ーをーす。所にーつー尋作ち受けノ支ま工ーこをにのり良らおに仕
のよ業チ。暮ら齡おつ、すの大ーもーね業やけノ払せ賃おん見逆間すいわつ始事

五 五 五 四
張の玉ほグフ！ふ月加日月十ズ加！月近同月
りみ入にリエツれ二 吉十六と ル十に花十
ま競れてースレあ十 町八・対桜試六て見一
技、割六ライレ広日 八日十戦ヶ合日バ 日
暑符名ナルシー障 四 榎三で敗退
い、参ドルシー障 四 榎丘一八
中ぐみヨス害 名み 四ソベ木保
頑いずンボ者 参 四摘イ名フキ大健
参 一のトユ橋所
ン参ボ付合

レクレーンヨン



川城 園中 園
西島 石ペ部川様部
敏幹けー町京町
夫夫んパ様子タ社会
様様ー、トイチゴー、ル福祉
お菓子 タイオレット、ツ会

寄贈品

山口雅典
崎駅へ地鐵下り。大橋を渡つて園部木ド久
しきドキしてきなせます。あいだりやなあ。
ななみがいいてしいぶ、久
しもらえるみたいいてしいもた
しさと少しろかに喜んでもた
えと、いくつもの笑顔、私
を包み込んできしが私
あ、来てよかつた！

虫のオジヤマ



社会の荒い世界とおり、荒波と言ふと世界の荒い社会である。確かに厳しかった時代に、しきりに個性を發揮する世界が、同時に厳しい世界へ踏み出していく。それが、いわゆる「荒波」時代である。



雨の敵山

でまみわ二かにおでつん茅去がれ摘れ目ま中つ良ウ
ししんり時ら、昼しばでは年並いんたのし、たいグー
たたなま頃始朝のたいも短にんいで手人たおの春イホ
。°がしにめの休がに摘め比で摘、つも°茶はのスー
ごんたはた九憩、はんだべいみすきい二摘始日がホ
くば°よお時もそなでつてき終つでて回みめ差鳴ケ
ろうつ暑う茶三それりもた今まわき手み目がだしき、キ
うていや茶摘○こでまカの年しつり際ん、始け（ヨ
さみ、終くも、頃こ、んい摘新。木きくな回りの思地と

膝が分かれて開け付けておれません。後片
もそこそこに下山片
下りも急でした。登りがきつかつ
膝が笑う。下りが苦手
な山口さんと登りで疲れ
たぼくがビリでした。
大丈夫ですか？
あたりでかわいら
点の黒田さんも登
山口一夫さんも登
紅れな山口さんと
大丈夫ですか？
秋帰つてですか？
それまつた。

やまをいやです女施現バ所久み広十編集後記
日んし握ん！「るは設在！にしづ場五
でかたりや「金とこで家さ通ぶほ”回月
し！」「も、ち生庭ん所りに行り害者
た。」「業うすら生活の会い前まんふは“
そもたんと所けつの姿て事情でました。」
んの言へしと姿て情でました。メ作たんあ第
な嬉につ行たんをいだ当し。ン業。ドい三
春し驚てきいで発る入た。ン業。
のいき手たんき見彼所

